

令和3年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
成果報告書

団 体 名	公益財団法人千葉県文化振興財団	
施 設 名	千葉県文化会館	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 ( 総 額 )	16,268	(千円)
	公 演 事 業	849 (千円)
	人 材 養 成 事 業	13,419 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	2,000 (千円)

### (1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	NHK交響楽団演奏会	3年9月20日	出演：広上淳一、小山実稚恵、 NHK交響楽団	目標値	1,250
		大ホール		実績値	705※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## (2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	千葉県少年少女オーケストラ育成事業	3年4月1日～ 4年3月31日	音楽監督：佐治薫子 特別指導：宮川彬、井上道義	目標値	160名
		練習室・大ホール		実績値	160名
2	千葉県東総文化会館開館30周年記念千葉県少年少女オーケストラとアキラさんの大発見コンサート2021 東総公演	3年8月21日	曲目：大発見マーチ、ラ・カンパネラ、 風のオリヴァストロ 他 出演：宮川彬 他 音楽監督：佐治薫子	目標値	900人
		千葉県東総文化会館 大ホール		実績値	323人※
3	千葉県少年少女オーケストラとアキラさんの大発見コンサート2021 千葉公演	3年8月22日	曲目：大発見マーチ、ラ・カンパネラ、 風のオリヴァストロ 他 指揮：宮川彬 他 音楽監督：佐治薫子	目標値	1750人
		大ホール		実績値	880人※
4	千葉県少年少女オーケストラ第26回定期演奏会	4年3月27日	出演：井上道義 他 音楽監督：佐治薫子	目標値	1,750人
		大ホール		実績値	1,024人※
5	第34回若い芽のαコンサート	3年6月27日	出演：山下一史、小林加奈、 山本栞路、浦井宏文 他	目標値	1,790名
		大ホール		実績値	715名※
6	千葉県こども歌舞伎アカデミー	3年6月～4年2月 (中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	25名
		会議室※		実績値	— ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ちば県民合唱団演奏会 カール・オルフ「カルミナ・ブラーナ」	4年3月6日(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	入場者数 1,000名・参加者 300名
		大ホール		実績値	— ※
2	親子 de オペラ鑑賞デビュー「ヘンゼルとグレーテル」	3年8月8日	出演：二期会 BLOC 千葉会員 他	目標値	720名
		小ホール		実績値	475名※
3	落語×音楽（らくおんプロジェクト）～高座にブラボ	3年12月11日	出演：雷門小助六、塚本江里子 他	目標値	150名
		小ホール		実績値	75名※
4	能楽師が先生！、青葉伝統芸能講座	3年10月31日、 4年1月30日	講師：山井網雄、柏崎真由子	目標値	250名
		青葉の森公園 芸術文化ホール 展示室、練習室		実績値	75名※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価																	
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>																	
<p>1. ミッション、ビジョン、地域特性・ニーズ、施設の強み・特色と各事業の連関について</p> <p>当劇場は、千葉県の条例に基づく「福祉向上」や「文化の発展」に資することを目的として設立され、「文化資源の活用」「新たな文化を掘り起こす」ことによって「千葉県に対する愛着や誇りを育み、活力に満ちた地域社会の形成に貢献する。」ことを目指している。</p> <p>ミッション・ビジョンについては、次期指定管理期間（5年間）を見据えて再構築した。中でも財団設立当初から心血を注いでいる鑑賞機会の格差解消・文化芸術の担い手不足に焦点を当て、地域特性・ニーズを導きの糸として設定した5つのビジョンに個別の事業を分類して事業展開を図った。</p>																	
<p>ミッション                      ビジョン</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 魅せる劇場</td> <td>(1) 優れた鑑賞公演の提供</td> <td>公演事業</td> </tr> <tr> <td>2. 広げる劇場</td> <td>(2) 県民ニーズに応えた制作</td> <td>普及啓発事業</td> </tr> <tr> <td>3. 創造する劇場</td> <td>(3) 青少年の育成、専門人材の養成</td> <td>人材養成事業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(4) あらゆる人々が文化芸術に触れ、鑑賞する機会の創出</td> <td>普及啓発事業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(5) 地域の活性化、地域コミュニティの形成支援</td> <td>公演・人材養成・普及啓発</td> </tr> </table>			1. 魅せる劇場	(1) 優れた鑑賞公演の提供	公演事業	2. 広げる劇場	(2) 県民ニーズに応えた制作	普及啓発事業	3. 創造する劇場	(3) 青少年の育成、専門人材の養成	人材養成事業		(4) あらゆる人々が文化芸術に触れ、鑑賞する機会の創出	普及啓発事業		(5) 地域の活性化、地域コミュニティの形成支援	公演・人材養成・普及啓発
1. 魅せる劇場	(1) 優れた鑑賞公演の提供	公演事業															
2. 広げる劇場	(2) 県民ニーズに応えた制作	普及啓発事業															
3. 創造する劇場	(3) 青少年の育成、専門人材の養成	人材養成事業															
	(4) あらゆる人々が文化芸術に触れ、鑑賞する機会の創出	普及啓発事業															
	(5) 地域の活性化、地域コミュニティの形成支援	公演・人材養成・普及啓発															
<p>○地域特性・ニーズ</p> <p>オーケストラや吹奏楽、合唱などアマチュアの音楽活動が盛んに行われている。</p> <p>千葉県が実施した「文化芸術の振興に関するアンケート調査」によれば「子供たちが文化芸術に親しむ機会の充実」を望む声が高い。(47.5%)</p>																	
<p>2. 当初の予定通りに事業が進められたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助成対象事業は合計11本で、県民ニーズの高い、優れた芸術公演を鑑賞できる機会の提供として「公演事業」(1本)、「千葉県少年少女オーケストラ」の活動を巡回軸として、青少年の育成、文化芸術の担い手不足という地域社会課題の解決に挑む「人材養成事業」(6本)、様々な年代の方が文化芸術を体験・参加するきっかけとなるような機会を創出し、文化活動の裾野の拡大を目指す「普及啓発事業」(4本)を実施した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、人材養成事業1本と、普及啓発事業1本を中止せざるを得ない状況に追い込まれ「当初の予定通り」とはいかなかったが、実施した事業は座席数制限などの感染症対策、練習方法の工夫など、安心・安全のための様々な措置を行い、全ての助成対象事業11本のうち9本の開催を実現させることができ、概ね予定通り開催することができた。</li> </ul>																	
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域特性やニーズを踏まえ鑑賞機会の拡大を図ると同時に、例えば「親子 de オペラ」は、文化事業が少ない文化施設での公演を行うことで、財団が蓄積してきた運営の経験や舞台技術のノウハウを他の劇場や文化団体・県民に還元した。地域文化の底上げが行われ、地域施設発となる事業が回を追うごとに進化するなど波及効果のループを形成している。</li> <li>・「音の響きが良い」という劇場の特性を生かして音楽を中心とした事業群を組み立てつつ、特定の分野に偏ることなく、子供たちが文化芸術に親しむための多様なチャンネルを設け、次世代への文化芸術の「創造・発展・継承」を目指した‘人づくり’を行っている。以上のことから「文化的意義」が認められる。</li> <li>・全県域を網羅した文化振興への取り組みとして令和3年度から「千葉県立文化会館4館連携事業」をスタートした。その1つである「落語×音楽(らくおんプロジェクト)」は、落語と音楽をコラボレーションさせた公演で、県立4館で巡回させることによって、伝統芸能の新たな魅力発見を促し、あらゆる人々が文化芸術に触れ、鑑賞する機会の創出(鑑賞機会における地域格差)という諸課題解決の一助となるよう努めたことから「社会的意義」が認められる。</li> </ul>																	

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### 1. 目標・指標設定の考え方

千葉県の実施したアンケートにおける「県が抱えている課題」（鑑賞機会の格差解消、文化芸術団体の担い手不足）と、「ニーズ」（子供たちが文化芸術に親しむ機会の充実）をベースに組み立てた当館の企画を、当該補助金メニューの「公演事業」「人材養成事業」「普及啓発事業」に割り当てて計画を立て、下記の目標を設定した。

（1）公演事業 ①多くの県民に優れた公演を提供する／②県民のニーズに応える事業を提供する／③県内の広い地域からご来場いただく

（2）人材養成事業 ①入団希望者の増加を目指す／②多くの市町村からの参加を目指す／③より良い練習環境の提供を目指す／④若い実演芸術家に多くの県民の前で演奏できる機会を提供する／⑤多くの子ども達に伝統芸能（歌舞伎）の魅力を伝える

（3）普及啓発事業 ①多くの県民が文化芸術に参加できる機会を提供する／②県民のニーズに応える公演を提供する／③入場率 80%以上を目指す／④文化芸術への興味・関心を高め、ファンの拡充を図る

#### 2. 指標設定の根拠（データの種類、実績）、指標の達成

##### 【公演事業】

指標根拠	過去データ、実績	実績	達成の有無
①NHK 交響楽団平均入場率	クラシック公演平均入場率 66.0%	78.8%	達成
②NHK 交響楽団アンケート満足度	過去実績 89.2%（「満足」の回答）	94.4%	達成
③NHK 交響楽団地域別来場者	県内 32 市町村からの来館	15 市町村	全ての影響

##### 【人材育成事業】

人材養成事業の指標根拠	過去データ、実績	実績	達成の有無
①少年少女竹選考会参加者	過去 3 年平均 37 名	11 名	全ての影響
②少年少女竹選考会地域別参加者	入団者のない市町村数：13 市町村	なし	全ての影響
③少年少女竹練習の充実	国内のフオーケストラに在籍している OB、OG 等の指導者	7 名	達成
④助成対象事業の平均入場率	平均入場率 93%以上	76.8%	全ての影響
⑤歌舞伎アカデミー参加者	過去 5 年平均 18 名	中止	—

##### 【普及啓発事業】

普及啓発事業の指標根拠	過去データ、実績	実績	達成の有無
①ちば県民合唱団参加者	平均参加人数 200 名以上	中止	—
②対象事業の満足度／入場率	平均満足度 93.1%／平均入場率 81.6%	83.4%/72.5%	全ての影響
③能楽師が先生！参加者アンケート	アンケートで能を鑑賞したいと答えた人	60%	達成

#### 3. 目標を達成したか

・新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた（座席数制限など）ものの、公演事業、人材養成事業、普及啓発事業のいずれもアンケート調査の結果、満足度において指標数値に実績を残せたという結果を鑑みると、目標をある程度達成したと言える。

ただし、指標の項目は、目標の達成を測定する上で必ずしも十分とはいえず、指標設定の精度を上げて有効なエビデンスを取得すべく努力していきたい。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

##### (1) 「公演事業」

- ・県民のニーズに応える公演として、NHK 交響楽団演奏会（事業番号 1）を当劇場としては 26 年ぶりに開催した。公演日はまん延防止対策措置が発令されている期間であったが、客席の収容人数を 50%に制限して開催し、事業期間については当初の計画通り適切に進めることができた。

##### (2) 「人材養成事業」

- ・千葉県少年少女オーケストラの育成（事業番号 1～4）（160 名の団員が、年間 100 回以上の練習活動によってサウンドを作り上げ、定期演奏会など計 3 本の成果発表公演を行う）、は、年間を通して継続活動を行う性質の事業である。全国的にジュニアオーケストラの活動が停滞を余儀なくされている中、千葉県少年少女オーケストラは、安全の検証を重ねたうえで 4 月から練習を開始し、8 月と 3 月に開催した 3 公演も、座席数制限を設けるなどの措置を講じながら行うことができた。
- ・千葉県出身、在住などの若手演奏家がプロオーケストラと共演する育成型公演である若い芽のαコンサート（事業番号 5）は、客席数に制限を設けながらも、事業期間については当初の計画通り適切に進めることができた。
- ・千葉県こども歌舞伎（事業番号 6）は開催や活動スタートの見通しが立たず中止の選択をした。

##### (3) 「普及啓発事業」

- ・初めてのオペラ鑑賞体験を届ける子ども向け公演、親子 de オペラ鑑賞デビュー（事業番号 2）と、落語と音楽をコラボレーションさせた新たな取り組みである、らくおんプロジェクト（事業番号 3）は、どちらも歌唱を含む公演であったが、出演者のマウスシールドの着用や、客席前方を空席にし、十分な距離を確保するなどの感染症対策を講じ、当初の計画通りに進めることができた。
- ・能楽師が先生！（事業番号 4）は国立能楽堂との連携を活かして能楽師を派遣していただき、伝統芸能の普及にむけたワークショップを行った。2 日間の開催で、安全確保のため定員を大幅に減らして実施した。
- ・ちば県民合唱団演奏会（事業番号 1）は、団員が集まって練習を行うことが難しく、中止を余儀なくされた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

##### 【事業費】収支決算（要望時と実績報告時における助成対象経費の比較）

- ・事業費は、指定管理料（指定管理期間 5 年間の定額）並びに入場料・参加料収入から予算組みを行っている。

事業 No	公演 1	人材 1	人材 2	人材 3	人材 4	人材 5	普及 2	普及 3	普及 4
事業名	N 響	竹育成	竹公演	竹公演	竹定期	若い芽	親子 de	らくおん	能楽師
要望 →実績	減	増	減	減	増	減	減	減	減

- ・総じて多大な新型コロナウイルスの影響が生じ、収容人数の制限をはじめ、親子 de オペラでの演出の制限や、開演前に行うワークショップの中止等により、要望に比べ対象経費が減った事業が多くみられる。
- ・「人材 1」は練習を 2 班体制にしたため指導料が増額し、「人材 4」では、出演者の抗原検査などコロナ対策に係る経費が増額した。

##### 〈入場者・参加者〉

- ・継続事業は例年のデータから算出、新規事業は 80%を目指した。やはり新型コロナの影響により結果は計画を下回った。（下表参照。座席数制限や会場の変更が生じたため実績/目標の算出は行っていない。）

事業 No	公演 1	人材 1	人材 2	人材 3	人材 4	人材 5	普及 2	普及 3	普及 4
事業名	N 響	竹育成	竹公演	竹公演	竹定期	若い芽	親子 de	らくおん	能楽師
目標値	1,250 名	160 名	900 名	1,750 名	1,790 名	1,790 名	720 名	150 名	250 名
実績値	705 名	160 名	323 名	880 名	1,024 名	715 名	205 名	75 名	75 名
コロナの 影響	席設定 50%	—	席設定 66%	席設定 66%	席設定 66%	席設定 66%	席設定 50%	席設定 66%	定員 大幅減

- ・以上、アウトプットに対する「事業期間・事業費」については、中止や内容の変更をせざるを得なかった事業もあり、実施できたとしても収容人数の制限を余儀なくされた。様々な努力と措置を講じ、開催を実現させたことは意義あるが、必ずしも当初計画どおりに進んだとは言えなかった。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### 1. 機能を最大限に発揮するための資源【視点1】

(1) 劇場を象徴する人物、鍵となる人物（キーパーソン）の存在（舞台芸術に関する責任者等の役割）

・音楽監督（長い間小・中学校で音楽の教師を務め、合奏のコンクールで優秀な成績を収めてきた）が結成以来26年間「千葉県少年少女オーケストラ」を牽引している。「文化振興」と「青少年の育成」という目的のもと、最高の演奏を聴衆に届けるために、上級生は下級生のお手本になるための研鑽、下級生は上級生の演奏を聴き「良い音」を学ぶ、人間形成をも含め、この輪と和によって伝統のサウンドを継承してきている。

(2) 専属団体、フランチャイズ団体、提携団体の存在

・ジュニアオケは、1996年に都道府県レベルでは全国初となる少年少女オーケストラとして結成。県内在住または通学する10歳から20歳まで160名の団員が「良い音で、良い演奏を」をモットーにコロナ禍の状況の中でも音楽監督・スタッフ、トレーナーが感染防止対策に万全を期して練習、演奏活動を続けている。

楽団は、県内はもとよりサントリーホールや、アメリカ、ドイツ、ブルガリア、韓国などでも演奏を行い、広く発信を続けており、令和3年度は3本の公演を実施した。

助成対象事業の公演は常に満席の結果を出してきたが、令和3年度は、客席数の制限を設けたため「効率性」の事業費に関する(2)で記載した通りの結果となった。

・当劇場を拠点とし「おらがまちのオーケストラ」を掲げるプロオーケストラ「千葉交響楽団」とは様々な事業（ジュニアオケ、若い芽のαコンサート）において連携を推進している。

(3) 創造活動に関わる建物設備

・「音の響きの良さ」は分野の専門家も高く評価するところである。高機能を有する劇場ではないが、大ホールは舞台や客席の独特の立体感と雰囲気、巨大なホワイエの佇まいが相まって唯一無二の空間を作り上げ、老若男女問わず県民から高い支持を得ている（公演や施設アンケートから）。これまでに日本建築学会賞作品賞、BCS賞、公共建築100選を受賞したが、開場50年以上を経た現在、建築物の面でも再び注目を集めている。

(4) 安全確保のための取組内容等

・新たに感染防止対策を取り入れた消防訓練（会館職員から清掃スタッフに至るまで全員が参加）を実施。また、高齢者の観客や来場者に対応するため、心配蘇生やAEDの使い方を学ぶ普通救命講習、障害者に対する介助方法を習得し防災介助士の資格を習得するなど、安全・安心の取組を積極的に行なっている。

#### 2. 機能を最大限発揮する事業として優れているか【視点2】（実施した事業についてのみ記述）

(1) 「公演事業」

・「NHK 交響楽団演奏会」（事業番号1）は、日本最高峰のプロオーケストラ「N響」の千葉公演として、多くのクラシックファンのニーズに応えた公演となった。当日のコンサートマスターは千葉県出身で、人材養成事業5の「若い芽のαコンサート」出演経験がある伊藤亮太郎が務めた。当財団の人材育成モデルの一例（若い芽出演→継続支援→プロとして躍進→さらに高みを目指す）を示し、県民に劇場の姿勢をアピールできた。

(2) 「人材養成事業」

・「千葉県少年少女オーケストラ」（事業番号1, 2, 3, 4）は、「視点1」で述べた考えに基づいて練習活動を継続し、成果発表の場である各公演では質の高い演奏を行い、聴衆からも高い指示を得るに至った。

・3月に行った定期演奏会（事業番号4）では、県図書館と県立中央博物館の協力を得て、演奏曲目・伊福部昭の「日本組曲」が作曲されたと同時期（昭和初期）の県内の風景をロビーに展示し、来場者に楽曲への理解をより深めてもらえるよう取り組んだ。

(3) 「普及啓発事業」

・「親子deオペラ」（事業番号2）と「らくおんプロジェクト」（事業番号3）は、県立文化会館4館の連携事業として、県立文化会館・地域の文化施設を有機的に結び付け、全県をカバーする事業展開を図った。

・以上のことから、計画の変更はあったものの、地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であったと認められる。



## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

具体的な事象（SNS 等での観客や参加者の反応、観客アンケート…第三者機関での実績…等）

### 「公演事業」

・「NHK 交響楽団演奏会」は、「若い芽のαコンサート」の出身・伊藤亮太郎がコンマスを務める地元民待望の公演で、没後 50 周年となるストラヴィンスキーの作品やラフマニノフのピアノ協奏曲を取り上げた。広上淳一の渾身のタクトと小山実稚恵の技巧、オーケストラのサウンドが相まった高水準の演奏で観客を魅了した。

### 〈観客アンケート〉

「N 響とても良かったです。感激しました。これからも毎年、または数年に一度会館に来てもらいたいです。そういう企画をたててください。お願いします。」

「また是非オーケストラを。小中高校生券（500 円）は素晴らしいです」

### 「人材育成事業」

・「千葉県少年少女オーケストラの育成」では、宮川彬良を迎え、子どもから大人まで誰もが音楽を楽しめる「大発見コンサートコンサート」を、千葉県文化会館・県東総文化会館で開催。令和 3 年度は県南総文化ホールと連携し、東総の模様をライブ中継で繋ぎ、音楽を楽しむ新たな機会を提供することができた。

一層愛されるオーケストラを目指し、積極的に招待演奏にも出演（国際ソロプチミスト千葉）。新たなファン拡大に繋げた。

1 年間を総括する定期演奏会は、井上道義の指揮、ホルンの安土真弓氏の独奏で、バレエ組曲「三角帽子」の演奏や「管弦楽のための組曲より」を演奏。

卒団後にはプロ演奏家として活躍する人材、それぞれの地域で演奏を通じた地域貢献ができるような人材を輩出することも目指しており、例えば「若い芽のαコンサート」の出演をはじめ、ステップを踏みながら人材育成がなされるストーリーを構築している。

### 〈指揮者・井上道義さんのホームページ（定期演奏会）〉

「…練習をイヤッていうほど積み、味もあり、勢いもあり、子供らしくまた、以前にもまして自由さのある良い演奏になった。…ファリヤの三角帽子は多分そんじょそこのプロオケでは味わえない集中力とエネルギーに溢れた演奏だったし、…皆がひとりひとり舞台人として格好良かった。」

### 〈指揮者・角田鋼亮さんの Twitter（国際ソロプチミスト）〉

「今日は千葉県少年少女オーケストラのと『秋のふれあいコンサート』。若い方々が、音楽の中に入り込んで演奏している姿を見て、胸が熱くなりました。本当に世界に誇れるオーケストラだと思います。このタイミングで共演する機会をいただいたことに感謝。皆さんの未来に幸あれ」

### ・「普及啓発事業」

県全域でのオペラ普及を目指し県内 5 か所を巡回した「親子 de オペラ鑑賞デビュー」に加え、令和 3 年度は新たに日本の伝統的な話芸の落語と音楽を合わせ一つの作品とする新しい試みとして「落語×音楽（らくおんプロジェクト）」を開催。文化芸術の可能性をひろげることに挑み、落語愛好家、音楽愛好家ともに楽しんでいただくことができ、これまでもう一方を鑑賞したことがない方にとっても親しみきっかけを創出した。

### 〈観客アンケート〉

「落語と音楽のコラボ、音響付きの落語も良かったです。単独の落語は久しぶりだし、音楽ステージもとても良かった。長く生の演奏が聴けなかったので今日は気分がよいです」

・以上、地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながったと認められる。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

◎事業終了後も持続的に発展することができる組織構築（事業運営、経営戦略、人事戦略、ネットワークの構築等の点から）

#### 1. 人材面

・「劇場・音楽堂は人材により成り立つ」「一人ひとりが、千葉県の文化振興を担うプロフェッショナルである」という共通認識のもと、人材育成と組織の活性化に特に注力して経営戦略を打ち立ててきた。職位やキャリアに応じた研修、舞台技術の資格取得、アートマネジメント知識の向上や緊急対応能力の向上にも努めた。これら研修等の実施は例年の50%程度に留まったものの40種類以上に及び、参加人数は延べ約250名に達した。若い職員が増え世代交代が進む中、先輩職員が後輩職員をサポートすることで知識、技術、能力の向上を図る当館伝統のメンター制度を駆使して、OJT、OFFJT両目からスキルアップを図った。

専門家集団であると同時に、ジョブ・ローテーションによって職員が施設管理や総務の業務、企画・立案の業務、さらには舞台技術業務を経験することによって、総合的な劇場マネジメントの能力を養っていることも強みであると考えている。

#### 2. 財務面

・利用料収入のマイナスにより減収となったものの、経営計画に基づく無駄を省きつつ無理のない範囲での効率的な経費節減、光熱水量の使用料節約に努める一方で、収入増加に向けファンドレイジング活動、設置者からの指定管理料、メセナ支援によって、安定した経営基盤の確立に努めた。

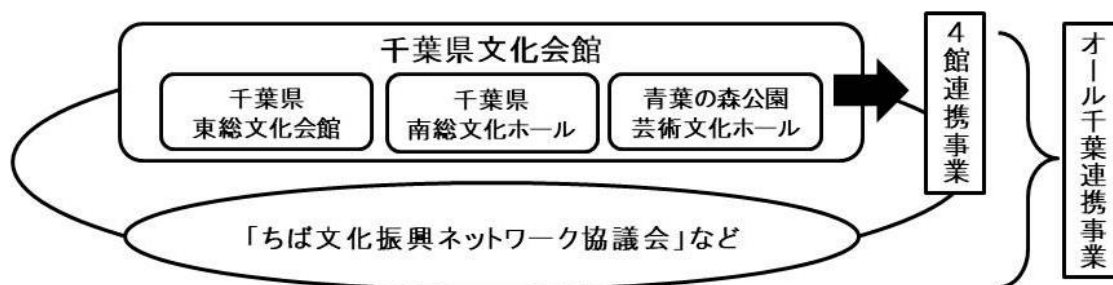
また、公益財団法人の優遇税制措置を活かした寄付金の獲得、文化庁や経済産業省といった国や県、民間助成団体などからの助成金の獲得にも取り組んだ。

#### 3. ネットワーク面

・県内公立施設の拠点という意識から、国の施策や新型コロナにまつわる施設の対応に関する情報提供、感染防止対策への助言を積極的に行い、千葉県54市町村の劇場・音楽堂のリーダーシップをとっている。大学との連携協定による協働などネットワークづくりに積極的に取り組んでおり、自主事業を行っていない文化施設での公演など地域への還元というループを形成している。

#### 〈新しい取組〉

・特に令和3年度から「千葉県立文化会館4館連携事業」を立ち上げ、4つの会館を有機的に結び付けつける事業を展開した。今後は県立4館連携に加え県内12の文化振興財団による「ネットワーク協議会」を駆使して、さらに県内全域で県民が文化芸術に親しむ環境づくりに努めたい。



・妥当性で述べたミッション、ビジョンに基づき年度の実施計画（Plan）を策定し、文化事業、管理事業、経営の実施（Do）、進捗状況の管理・調査や評価の実施（Check）、次年度に向けた改善（Action）のサイクルを回している。

・今後も継続して確固たるPDCAサイクルを構築し、持続性の強化によって組織の発展を目指す。そのために、外部専門家による助言や諸課題解決のための検証などアドバイザーを起用し、「広報・宣伝・営業」「ファンドレイジング」「文化サービス」「マンガ・アニメーション、メディア・アート」「施設全般」「舞台技術」の6つのジャンルの強化を図っている。